

演題番号 山間地域コミュニティにおける健康とソーシャルキャピタルの現状

事務局記入) ^{とわたりようこ}戸渡 洋子 (学校法人银杏学園 熊本保健科学大学保健科学部看護学科)

【背景および目的】 社会的環境の変化に伴う、新たな健康課題として、健康格差、自殺数の増加、孤立化等の指摘があり、これらは地域コミュニティにおける相互の信頼感や互酬意識である「Social Capital : 社会関係資本 (以下ソーシャルキャピタル)」の脆弱化に起因するとの見解がある。また、厚生労働省は、平成 24 年 4 月 6 日地域保健対策検討会においてソーシャルキャピタルを活かした保健活動の重要性を示唆している。しかし、過疎化、少子高齢化の深刻な山間地域では、物理的な理由から、人々のつながりが希薄化し、地域コミュニティの存続が危ぶまれるケースも少なくない。これらのことから、山間地域コミュニティの地域保健に携わる際のソーシャルキャピタルおよび健康へのアプローチ手法の検討・開発は、重要課題であると考ええる。

そこで、本報告では、まず山間地域コミュニティにおける健康とソーシャルキャピタルの現状を明らかにすることを試みた。

【対象】 熊本県 A 町 S 自治振興区の 20~70 歳代の住民 399 人を対象とした。A 町の高齢化率は 37.1%、S 自治振興区は 41.2% であり (平成 22 年国勢調査)、また、S 自治振興区は、山間地域の急な斜面に集落が点在している地区である。

【方法】 区長の協力を得、直接配布法による質問紙調査を実施した。305 人の回答 (回収率 76.4%) を得、有効回答 270 人 (有効回答率 88.5%) について分析を行った。ソーシャルキャピタル測定には農林水産省作成「農村のソーシャルキャピタル調査用紙」を、健康度の測定には健康関連 QOL 「SF-8」を用いた。

【結果】 ソーシャルキャピタルは健康関連 QOL の精神的サマリースコアとの相関を認めた。また、

ソーシャルキャピタル項目のうち「友人と会う頻度 (町内外を問わない)」が、精神的サマリースコアと関連があることが示唆された。

【考察】 これまで、地域保健活動において行われてきた、住民参加型の保健活動は、ソーシャルキャピタルの醸成への貢献度が高いため、山間地域ではより重要度が高いと考える。今回の調査で、「友人と会う頻度」が、健康関連 QOL の精神的サマリースコアと関連が深かったことから、「友人と会う頻度」を増やす支援や補完する支援について検討する必要があると考える。「友人と会う頻度」を補完する支援については、「町外との人々とのつながり」、つまり「橋渡し型のソーシャルキャピタル」の醸成を意図した地域保健活動のあり方が、今後の課題ではないかと考える。

【結論】 本報告では、量的調査により、山間地域コミュニティの健康とソーシャルキャピタルの現状を明らかにすることを試みた。しかし、地域コミュニティによる地域コミュニティのための、ソーシャルキャピタルの醸成を検討するためには、住民、あるいは、地区組織活動の実践者らの声を詳らかに聴き取る質的研究は欠かせないと考えられる。今後、山間地域コミュニティにおける健康的なまちづくりを目指し、この地区の住民インタビューにより「友人と会う頻度」を左右する要因等について明らかにすることで、コミュニティへのアプローチ手法の検討を深めていきたいと考える。

E-mail ; towatari@kumamoto-hsu.ac.jp